

テスト事例 2（再構成探求型）

【問題（抜粋部分）の設定状況】

- ・ 解答者は中心商店街である K 商店街の活性化を計画するまちづくり機関の一員。
- ・ 活性化のために空き店舗の有効活用を計画中
- ・ これまでの話し合いで「居住施設化案」と「立体駐車場化案」の2つに絞られている。

※解答に伴う2つの案のいずれかの選択は評価の良し悪しには影響しない。

【問題事例（一部抜粋）】

問3 以下に挙げる2つの案のどちらに決定するかに際してあなたは意見を求められている。どちらの案に賛成かを明確にした上で、相手を説得することを踏まえ、資料を1つ以上用いてその案に賛成である理由を述べよ。

○居住施設化案

来街者が減少したのは商店街周辺の居住人口が減少したからである。

その減少した居住人口を増やすために空き店舗を居住施設にした方が良いのではないか。

そうすれば居住施設に住む人々がこの商店街を利用するようになり、活性化するだろう。

○立体駐車場化案

来街者が減少したのは商店街周辺の居住人口が減少したからである。

周辺からでなくとも遠くからでも来街できるように空き店舗は立体駐車場にした方が良いのではないか。

そうすればより広い範囲からの来街者が確保でき、活性化するだろう。

◎ 関連性・他者性・状況性の全てに対応

【ループリック・アンカー事例】

アンカー事例

尺度	想定される事例（アンカー）（以下は「居住施設化案」を選択した事例）
5	私は居住施設化に賛成である。なぜならば資料2, 3から地域人口の増減は来街者数に大きく影響を与えているといえるので、居住施設化して地域人口を増加させれば来街者数を確実に増加させることが出来る。確かにより遠い地域からの来街者を得るために駐車場を設置することも一理あるものの、資料6より駐車場の設置事業を行う商店街の中で繁栄しているのは3.4%に過ぎない一方衰退しているのは15.2%と、駐車場の設置が商店街に好影響を与えとも言えないのは明らかである。ただし、この商店街の周辺人口が減ったのはこの地域に居住する魅力が乏しくなったためとも言える。この地域に居住する魅力を増大させる取組を併せて居住施設化を進める必要がある。
4	私は居住施設化に賛成である。なぜなら居住施設化による地域人口の増加によって来街者が増えることは資料2, 3によって明らかであるためである。駐車場化案はより広い範囲から来街者を集めることができるメリットがあるものの、資料6の駐車場を設置する商店街の繁栄・衰退の項目より、駐車場設置が商店街の繁栄に役立つとは言えない。しかし居住施設化案も郊外の居住者が商店街周辺の居住に魅力を感じないと入居者が少なくなり来街者の増加に直結しないとも言える。
3	私は居住施設化に賛成である。資料2, 3より地域人口を増加させれば来街者数も増加するので、居住施設化によって地域人口を増加させるべきである。駐車場化案については、資料1より主な来街者層は自動車を運転しない割合が大きい高齢者などが多く占めるためにあまり効果的ではないと考えられる。
2	私は居住施設化に賛成である。資料2から地域人口を増加させれば来街者が増えると言える。したがって空き店舗を居住施設化し、地域人口を増やすことによって来街者を増加させることが効果的である。
1	私は居住施設化に賛成である。資料1より主な来街者層は主婦と高齢者である。居住施設化することによって主婦や高齢者以外の来街者も増えると考えられるため、空き店舗は居住施設化する方が望ましい。

ループリック事例

	ループリック
5	自らの立場を明確にしている。 対峙する案を踏まえ、複数の資料を活用して合理的に説明している。 自説のデメリットに言及しつつそれを解消する取組を提示している。
4	自らの立場を明確にしている。 対峙する案を踏まえ、複数の資料を活用して合理的に説明している。 自説のデメリットに言及している。
3	自らの立場を明確にしている。 対峙する案を踏まえ、複数の資料を活用して合理的に説明している。
2	自らの立場を明確にしている。 資料を活用して合理的に説明している。
1	自らの立場を明確にしている。 資料を用いているが説明が合理的とは言えない。

【本問題事例の位置づけ】

※特に重視されるものに限定して示した		パフォーマンス評価の枠組み		
		原理と一般化	本質的な問い	永続的理解
社会科の枠組み	関連性 ：係わり	商店街の分類とその衰退要因		小売業とそれを成立させる商圈人口の関係
	他者性 ：関わり		商店街の現状や他意見を踏まえた中心商店街活性化策の比較・選択における価値関係的判断	
	状況性 ：拘わり			

